

○議長 内海 猛年君

次に10番、辻本議員の一般質問を許します。辻本議員。

○議員 10番 辻本 一夫君

10番、辻本です。通告書に従いまして一般質問させていただきます。

件名1、あしや砂像展の今後の在り方についてお尋ねいたします。

我が町も他町村と同様、少子高齢化が進み、人口も1万3,000人と減少傾向にあります。芦屋町には海と川、そして歴史・文化もあります。これらを生かした交流人口の増加策を推進しようとするレジャー港化をはじめ、砂像展等の集客イベントは、観光のまちづくりの方向性にマッチしていると考えています。

砂像展のオープニングのときに松本県議が、飛砂対策を逆手にとったこの発想はとてすばらしいと挨拶されていました。砂像展は県内オンリーワンのイベントとして定着しており、町の代表的なイベントになってきています。

このような中、先般、季節外れの大雨の影響で砂像展が中止となり、これまで支えてくれている関係者や多くの来場予定者から残念だ、これからも続くのだろうかとの声を耳にしており、砂像展の先行きを不安視しています。

そこで、あしや砂像展は今後どうあるべきか、ということについてお尋ねいたします。

要旨1、あしや砂像展の魅力はどんなところだと捉えていますか、お答えください。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

砂像展の魅力ということでございますが、一言で言えば、先ほど議員もおっしゃったとおり、オンリーワンイベントであることだと思っております。

砂像イベントは芦屋の広い砂浜を活用し、町の活性化を図る目的で平成4年にビーチカーニバルとしてイベントが始まりました。平成6年より規模を拡大し、砂浜の美術展として開催されることとなり、メディアにも多く取り上げられ、多くのお客様が訪れる県内でも有名なイベントの1つとなりました。その後8年間の休止を挟み、平成26年にあしや砂像展として再開し、現在に至っております。

現在のあしや砂像展は、世界トップレベルのプロ彫刻家が制作する精巧でクオリティーの高い砂の彫刻と、地元の自然を舞台に美しいロケーションの中、砂像のすばらしさを感じていただける、国内唯一のイベントだと思っております。

また、この精巧でクオリティーの高い砂像が制作できるのも、芦屋の砂あつてのものであり、芦屋ならではのすばらしいイベントだと思っております。

令和6年第4回定例会（辻本一夫議員一般質問）

以上です。

○議長 内海 猛年君

辻本議員。

○議員 10番 辻本 一夫君

私自身、砂浜の美術展の1年目から専門委員として数年関わってきましたので、この砂像展のよさはよく分かっているつもりでございます。

ただ、その当時と比べて、今はプロの彫刻家の制作ということでレベルが非常に上がってきています。

見方によっては単なるイベントかもしれませんが、県内では今、課長の答弁があったように、芦屋だけができる砂像展であることから、協力してくれている人たちは誇りを持って携わっていただいていると思っています。

1か月ほど前、夜中ですけれども、テレビを見ていましたら、九州274市町村の魅力度ランキングというのがありました。もう夜中の2時ぐらいになっていましたけれども、芦屋が出ないんです。出るまでいくつかなと思っていましたら、芦屋はちょうど128番目。128位です。

これは考え方ですけれども、今後の取り組み方次第ではまだまだ伸び代があると感じて、見ました。

次に、要旨2に移ります。

砂像展は、今後も継続して開催するのか、それとも終止符を打とうとして考えているのか、どちらで考えていますか。

○議長 内海 猛年君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

お答えいたします。

国内にも類を見ない、芦屋ならではの素晴らしいイベントであると考えており、町といたしましては、継続していきたいと考えております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

辻本議員。

○議員 10番 辻本 一夫君

継続するという答弁いただきまして、安心しました。

では、砂像展を継続するための課題については、どのようなことが考えてあるかをお答えください。

○議長 内海 猛年君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

お答えいたします。

議員のお話にもございましたが、今年のイベントは大雨の影響により、中止を余儀なくされました。中止の理由は、雨による砂像の損傷など、会場の復旧が不可能との判断に至ったためです。

結論から申し上げますと、現在の砂像展開催を継続していくためには、雨への対策が課題であると考えております。

その理由としましては、イベント中止の原因となった砂像の損傷について、関係者とも検証を行ったところですが、砂像の状態から推測すると、損傷に至った要因として3つのことが考えられます。

1つ目は、大雨が砂像を直撃し損傷したこと。2つ目は、大雨により会場内に水がたまり、排水が悪く、砂像が水を吸い上げたことにより、内部からも崩壊したこと。3つ目は、長期間繰り返し使用してきた砂の劣化による、強度の低下も考えられるとの見解を受けております。

以上のことから、これらに対応する対策を講じることが課題であり、町としましては、イベント継続に向けて対策等の検討を進めたいと考えております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

辻本議員。

○議員 6番 辻本 一夫君

今の話の中で、3点あるという話がありました。

大雨対策、それから水はけ対策、砂の劣化ということでありましたが、そうだろうと思います。

では、1番大事なところですが、雨対策が必要だということになると、屋根をつける方式かなと思いますが、その場合、結構大きな屋根になると思われれます。

どんなイメージを考えられていますか。

○議長 内海 猛年君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

まだ、どのような屋根が適しているのかというところまでは考えられておりませんが、今後いろんな関係者等と話をする中で、サイズとか物とか、屋根に関しても考えていかなければならないと考えております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

辻本議員。

○議員 10番 辻本 一夫君

そこまで考えてないと、それは普通だと思いますよ。

ただ、今から屋根を、例えば私だったらこうするかなあというイメージがあるのですが、この中で1つ考えておいていただきたいのはロケーションです。これは非常に大事だと思っていますので、考えていただきたいということ。

それから砂の話が出ました。砂は計画的に何年かに、10年か分かりませんが、5年か分かりませんが、私は素人ですから分かりませんが、砂の入れ替えは絶対必要だと思います。劣化するのは当然です。砂は、あそこの砂を利用することになるとは思いますけれども、運搬とか保管とかする必要が出てくるとは思います、そこらあたりの考えはまだありませんね？どうですか。

○議長 内海 猛年君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

今、議員からいろんな御提案というか、考えのほうをお伺いしておりますが、まだ正直そこまで具体的な話というのも、その考えを1つの案というレベルでございまして、今後いろんな方と話しながら考えていくべきことだと考えております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

辻本議員。

○議員 10番 辻本 一夫君

分かりました。では次に行きます。

砂像展の作業現場に私は何回も足を運んできておりますが、ずっと気になっていたことがあります。何かといいますと、暑い中で作業している型枠工事の人たちのことです。

現在は工業部会さんが請け負って、型枠工事の作業しておりますけれども、この型枠工事は結構高いんですね、あの高さ見てください。5メートル、6メートルとあるでしょ。

そこらあたりを考えると、高所作業という言葉があります。そういう場合になったときは、元請業者というのが決まっていけないんじゃないかと私は考えますが、どうですか。

○議長 内海 猛年君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

現在の砂像展の型枠の作業ということでございますが、もうかなり、砂像展も始まって長い期

令和6年第4回定例会（辻本一夫議員一般質問）

間なりますが、そのノウハウとかいろんな砂像独特のものもございますので、今のところ工業部会さんがそのノウハウというのを持っていらっしゃるということで、今のところはその考えで進めてきているところでございます。

○議長 内海 猛年君

辻本議員。

○議員 10番 辻本 一夫君

私がなぜこれを聞くかというのと、もしもそこで、けが人が出たらどうしますか。どこの責任になりますか。これは行政が、町が実際やっていることになります。これは労働者災害補償保険の関係があるから、今お尋ねしているんです。これはぜひ改善したほうがいいと私は思っています。これはこれでいいです。

そのほか、私が考えていることが3点ほどありまして、申し上げますが、まず1点目は、後継者ができないと、この砂像展は続けることはできません。したがって継続開催に向けた流れの中で、制作プロデューサーや砂像制作者の後継者の確保は大事なことだと思います。これが第1点。

第2点目、ボートレース芦屋の地域貢献活動と砂像展とのコラボ開催にすることにすれば、予算、企画力、それから集客力、総合的なところで対応することがいいのではないかな。

第3点目、最近のイベントはドローンの活用が非常に増えてきています。芦屋の砂像展は音と光のショーとライトアップがありますが、これも古くなってきたんじゃないかなと私は思いますが、これはあくまでもいかに予算の関係があります。

予算の関係があるので、金曜日ですか、萩原委員から質問があっただけで経常収支比率との関係、私はそこらあたりから考えていくと、この砂像展の会計は一般会計と区分した会計によって、柔軟な対応をすることができるんじゃないかなと、私はこれを考えています。

これらについては、答弁は要りませんが、検討事項として受け止めていただければ幸いです。

最後に、砂像展の1番の課題は、冒頭話がありました雨対策でございますが、どこに屋根を設置するのかということになります。

私は、現在のところにするのがいいか、あるいはレジャー港化計画で白紙になった場所にするのがいいか、どちらかだと思っています。

この点は検討されますか。

○議長 内海 猛年君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

まず、先ほど私のほうから課題として考えられる要因をお伝えして、それに関しまして議員のほうからも会場でのいろんな御提案をいただいたところでございます。

令和6年第4回定例会（辻本一夫議員一般質問）

私のほうからは現在の砂像展、あの会場の今の課題に対する議員の御提案については、今後1つの案として検討とさせていただければと思っております。

○議長 内海 猛年君

辻本議員。

○議員 10番 辻本 一夫君

では本当に最後になりますが、この大雨対策に伴う会場の中で大事なことは、先ほど冒頭に触れました地盤のこともあります。屋根のことも当然ありますが、こういった大屋根等の設置についてなどは、早急に検討・実現してもらいたいと思っています。

併せて、レジャー港化用地も含めて、砂像展に1番適した場所をもう一度よく考え、今後も芦屋町の重要なイベントである砂像展を存続するために、執行部一丸となって取り組まれることを期待し、この質問を終わります。

次に件名2、山鹿排水機場の排水ポンプの処理能力についてです。

この件につきましては、集中豪雨のたびに山鹿地区の農耕地や道路が冠水し、住宅にまで浸水しかねない状況にあることから、執行部は唐戸の排水ポンプの排水能力向上について、遠賀川河川事務所に要望されておりますが、どのような状況なのかについてお尋ねします。

まず、これまでの経緯をお話ししますと、平成30年に線状降水帯の多発に危機感を感じて、国が設置した唐戸の排水機場の排水能力が低いのが原因ではないかと私は質問しました。その翌年、町は調査をし、結果として排水能力が低いことが判明したため、国交省に対して排水ポンプの新設を要望されています。

令和2年に国交省との交渉状況について尋ねましたところ、新設する基準を満たしていないという理由であったと、町長が不満を漏らしていたのを私は今でも覚えています。

先般の豪雨でも、地域の方から要望等があったと思いますが、根っこの部分をクリアしないといつまでたっても解決しません。

そこで、要旨1、これまでの国交省、遠賀川河川事務所との折衝状況についてはどうなっていますか、お尋ねします。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。都市整備課長。

○都市整備課長 小田 武文君

それではお答えいたします。

山鹿排水機場の排水ポンプ能力増強につきましては、令和2年11月25日付で遠賀川河川事務所長を訪ね、町長が要望してございます。

これに対し、令和2年12月9日付で回答がされ、床上浸水被害の解消という予算採択の基準

令和6年第4回定例会（辻本一夫議員一般質問）

に対し、実績がないこと。予算的にも大規模な事業となるため、予算の制約があるなか、実現が困難な状況が想定されます。山鹿地区浸水対策については、流域治水プロジェクトの一環として、国・県・町で連携・調整を図ってまいりますとの回答でございました。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

辻本議員。

○議員 10番 辻本 一夫君

聞いていますと、型どおりの回答かなと感じます。

今、話に出ました流域治水プロジェクトとは、どういったものなんですか。

○議長 内海 猛年君

都市整備課長。

○都市整備課長 小田 武文君

お答えします。

国・県・流域自治体などで取り組む流域治水プロジェクトですが、これは遠賀川流域全体で早急に実施すべき対策の全体像を流域治水プロジェクトとして示し、ハード・ソフト一体の事前防災対策を加速していこうというものでございます。

これにつきましては、激甚化、それから頻発化する水災害から命を守り、被害を最小化するための災害対策であることから、芦屋町では防災担当部署である総務課が所管しております。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

辻本議員。

○議員 10番 辻本 一夫君

分からんような、分かったような中身のようにですけども、あまり期待できないと思いますね。次にいきます。

要旨2、排水ポンプは改修で対応するのか、新設で対応するのかどちらですか。

○議長 内海 猛年君

都市整備課長。

○都市整備課長 小田 武文君

お答えします。

山鹿排水機場のポンプにつきましては、国土交通省遠賀川河川事務所の予算の問題から、新たなポンプに据え替えるといった話はございませんが、令和4年度・5年度でポンプのオーバーホールが実施されております。

令和6年第4回定例会（辻本一夫議員一般質問）

これは設備を細かく分解したり、洗浄したり、劣化した部品を交換したりして、徹底的に点検するものでございます。非常に手間がかかりますが、適切に実施することで設備の寿命延伸や精度回復などの効果が得られるものでございます。

このことから、長年の使用によって落ちていた処理能力が、本来の処理能力に近い状態へ回復することが見込まれるものでございます。

なお、今回のオーバーホールにおいては、電動化と回転数アップを行ったため、若干の能力アップとなっているとのことでございます。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

辻本議員。

○議員 10番 辻本 一夫君

河川事務所の考え方は、新設はしないということですね。

新設しないのでオーバーホールしか対応しない、それしかしませんということのようですがけれども、オーバーホールをしたとのことですがけれども、これはポンプの改修と捉えていいですか。

○議長 内海 猛年君

都市整備課長。

○都市整備課長 小田 武文君

若干の能力アップにはつながっておるとのことですので、改修の1つと捉えていただいてよろしいかと思えます。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

辻本議員。

○議員 10番 辻本 一夫君

先ほどから言っております、オーバーホールをすることによって、排水能力はある程度回復するというものですがけれども、昨今の降雨量は、唐戸の今の排水機場の排水ポンプは40年前にセットされたんですよ。現在の降水量と格段に違うと私は思っています。

やっぱり、オーバーホールしたって間に合わない。これ、現実ではないかなと思います。

したがって、排水ポンプの本体をやり替えることしかないと思います。それをしないと、内水氾濫を引き起こす可能性が高いということに変わりはないと考えます。

そこで、耳にしたことがあったんですが、福岡県といいますか、国は河川事務所に排水ポンプ車を配置したと聞いておりますが、遠賀川河川事務所には何台配置されていますか、知っていますか、お答えください。

○議長 内海 猛年君

都市整備課長。

○都市整備課長 小田 武文君

お答えします。

遠賀川河川事務所に確認しましたところ、排水ポンプ車を3台所有しておられるそうでございます。優先順位はもちろんあるようですが、町の防災担当部署からの要請があれば、貸出しも可能であると聞いております。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

辻本議員。

○議員 10番 辻本 一夫君

実は、排水ポンプ車見ているんです。水巻町のコスモスまつりの会場に行ったときに置いてあったので聞いたんです。これなんですかって聞いたら、今の排水ポンプ車なんです。

この能力なども聞きましたけど、それ、もう今、忘れまして。けれども、被害をある程度抑えるためといいますか、低減する効果は少しあるような気がします。線状降水帯のような、どか雨が降った場合は排水処理が追いつかないということは明白です。

またポンプ車の貸出しの話がありましたけれども、流域治水の自治体からお願いする時、みんな一気に手を挙げると思いますよ。そこらあたり考えると、芦屋はちょっと下かなと。上からすれば下のほうになるんじゃないかなと思ったりもします。あまり期待できないということです。

そこで、町長にお伺いします。

排水ポンプ新設の難しさは、本当に私も分かっていますが、遠賀川河川事務所に要望を繰り返して行っても、床上浸水被害の解消という予算採択の基準を満たしていないことを理由に、延々と進まないと思いますので、もうここは国土交通省本省に直接要望してはいかがでしょうか。

○議長 内海 猛年君

副町長。

○副町長 中西 新吾君

私のほうで答弁させていただきます。

議員も御説明されましたが、まず、令和2年11月の山鹿排水機場のポンプ能力増強についての要望は、芦屋町が令和元年度に山鹿地区の雨水排水区を対象に、浸水対策の調査業務委託を実施した結果、山鹿排水機場へ流入する雨水量が、既存のポンプ能力を超える計算結果となったため、要望を行ったものです。

回答は課長が申したとおり、予算的にも大規模な事業となるため、予算の制約がある中、実現

令和6年第4回定例会（辻本一夫議員一般質問）

が困難な状況が想定されるとありました。

その後も令和3年から5年にかけて、遠賀川河川事務所長と波多野町長が複数回、意見交換を行う中でも、山鹿排水機場への意見を申しています。

一方、現状では、芦屋町が実施した大君地区での雨水管の改修で、浸水は減じています。山鹿表耕地、裏耕地付近の住宅では、浸水による人的や財産の被害は出ていませんが、住民の方の不安はあるものと認識しています。

山鹿排水機場へ流入する雨水量について、芦屋町と国の考え方が違っておりますので、もう一度、事務レベルで、まずは調整を図っていきたいと考えております。

この件ではございませんが、山鹿排水機場付近を含む山鹿地区堤防整備事業、遠賀川護岸の左岸ゴミ堆積対策事業も遠賀川河川事務所で計画が進められております。意見交換をしながら、浸水対策の方向性を見定めたいと考えております。

国への直接要望活動については、方向性を見定めた結果によるものとなりますが、この件に限らず、令和7年度以降の事業について、特段の配慮を求めるものも出てまいりますので、執行部と議会で要望活動をしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

辻本議員。

○議員 10番 辻本 一夫君

本当にこの問題は難しいと思っておりますが、今、最後にお話ありました、令和7年度の予算要望等もあると思いますので、時期を見て一緒に議会も動くことは、やぶさかでないと思っております。これが町民のためになると思っておりますので、そのときは声かけしてください。

最後になりますが、住民の生命と財産を守るのは行政の責務です。今は想定外という言葉は通しませんので、陳情活動が不調に終わったら、方針を転換すべきだと私は思います。

そこで提案です。芦屋町は過疎債が活用できますので、山鹿地区の方々の不安を解消するため、町独自で新たな場所に排水ポンプをしてはどうかと思っております。

正津ヶ浜から田屋、そして夏井ヶ浜のほうに水路があります。私はそれを活用して、夏井ヶ浜に排水する方法があると考えます。ここ以外に適当な場所があるかどうか分かりませんが、検討をされてはいかがでしょうか、どうですか。

○議長 内海 猛年君

副町長。

○副町長 中西 新吾君

いろんな計画があると思っております。

令和6年第4回定例会（辻本一夫議員一般質問）

計画の俎上にはありませんが、例えば、田屋地区に排水ポンプを設置して雨水を排水する。ただ、排水した先が柏原漁港であるため、真水が一気に流れ出たときにどういう影響が出るかという問題もあると思います。

それと先ほど申しましたが、山鹿排水機場を含む山鹿地区堤防整備事業で、まだ今すぐの話ではないんですけれども、唐戸水門の位置が今の場所でいいのか。それとも、もっと遠賀川の河口のほうに持っていくべきなのか。そうしたときに、先ほどからお話がありますように、排水機能力が足らなければ、今ちょうど町有地が付近にできましたので、そこに排水機場を設けてもらって排水をするのがいいのか。

また、今、辻本議員がおっしゃった、その流れがどうなるのか、勾配がちょっとよく分かりませんが、夏井ヶ浜に持っていったときに、漁業区域になるので、そこでまた漁業者の方とどうなるのか。

また、昔、山の池というのがあったと、今、道路整備でなくなったんですけど、そのため池のオーバーフローをするために、遠賀川なみかけ大橋のほうに排水をした時期もありました。ただそれはもう道路整備ということで機能がなくなったわけです。

いずれにしても、その手戻りがないように、今後しっかりいろんな方策を見据えながら、検討はしていかないといけないだろうと考えております。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

辻本議員。

○議員 10番 辻本 一夫君

この排水機場の件ですけれども、排水能力が1番大事なんですね。だから今の国交省の排水機場の排水能力は低いわけですから、もう1基するという考え方が妥当ではないかなと私はこう思っています。

いずれにしても、この件につきましては、地域住民、山鹿地区の方たちの生命財産を守るためにしっかり検討されることを期待してこの質問を終わります。

○議長 内海 猛年君

以上で、辻本議員の一般質問は終わりました。